

先生も、勉強中。

子どもがイキイキ学べる環境を作りたい。

小中学生の学力や運動能力が全国でもトップレベルの福井県。その教育を支える先生たちの集まりが、福井県教職員組合です。ふだんはどんな活動をしているのか、代表の渡辺大輔さん(執行委員長)にお聞きしました。

— 福井県教職員組合は、どのような団体なのですか？

福井県教職員組合(以下県教組)は、県内ほとんどの教職員約5000人が加入している組合です。加入率は全国でもダントツのトップなのですが、校長先生や教頭先生も一緒に取り組んでいるのは大変珍しいんです。「子どもたちのよりよい教育環境づくりや教職員の働きやすい職場づくり」をモットーに取り組んでいます。

— 具体的な取り組みは？

子どもたち一人ひとりにまで行き届く教育のために、県の教育にかかる予算を増やしてもらい、制度をよりよく変えてもらえるよう、県PTA連合会や退職教職員の皆さんたちと一緒に、県や県議会にいろいろな要望を出してきました。

— どんなことが実現しましたか？

小学5年生から中3まで、30人以下の少人数学級が実現しました。国の基準では現在、1学級あ

たりの児童生徒数40人に対し教員1人です。他でも弾力的に30人学級を取り入れている県はありませんが、5学年に渡り完全実施されているのは例がありません。この体制を小学校低学年まで広げてほしいと、私たちは引き続きお願いを続けています。実現したのはこのほか、スクールカウンセラー配置、食教育充実のための栄養教職員の増配置などがありますね。

— 先生自らが、さまざまな改善の働きかけをしているんですね。教職員の資質向上などのソフト



福井県教職員組合 執行委員長 渡辺大輔さん

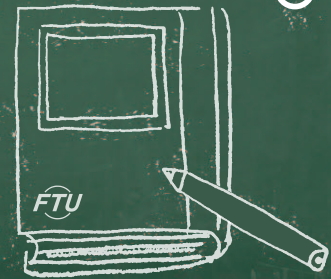
県教組には通算5年、執行委員長は2年目。国の予算削減など厳しい環境だが、子どもにできる最大限に教育をしよう働きかけたいと語る。

面にも、もちろん取り組んでいます。教職員自らが卓越したプロの指導法を学び、指導力の向上につながるよう、教育研究会を毎年開いています。参加すること自体が学校外にネットワークをつくるきっかけにもなっていて、特に若い先生にとっては不安や悩みを相談したり具体的な解決法を知ることなども多く、行政主体の研修会ではなかなかできない貴重な場となっているようです。

また県教組の組織の中には、事務職員や栄養教職員、養護教員の専門部があります。こうした専門の教職員は各校に一人しかおらず、専門部が大切な情報交換の場になっています。

— 教組って、先生方の権利や地位向上だけを働きかけている団体なんじゃないですか？

先生方の一番大きな悩みは「多忙化」です。早朝から深夜までの勤務が当たり前で、土日に出勤している先生方もいます。特に最近



えています。だからこそ先生方は子どもたちとふれあい、じっくり向き合う時間を多く取りたいと思っています。そのために、会議・出張等のスリム化や事務処理の削減などを県や県教育委員会に働きかけています。

— 幅広い活動をされていますね。子どもたちの教える人へは大きく変わり、ひいては国を変えることにもなる、と言われるように、教育は大きな力を持つてると信じています。社会が大きく変化して、学校教育に対する不信任も持たれがちです。だからこそ私たちは教育現場での努力はもちろん、広く情報を発信し、学校、保護者、地域の連携で子どもたちを守っていけるように働きかけていかなければと思っています。

問題は抱えている児童生徒が増

福井県教職員組合は県内16支部

《県教組のネットワーク》

1946年に結成された福井県教職員組合は、教職員5000人余りで組織され、98%を越える加入率は全国トップ。事務所は福井市大手の福井県教育センター内にあり、組合員から選ばれた役員8名(任期は2年~3年)と、職員5人が常駐しています。教育環境や教職員の処遇改善のために組合員の要望や希望をまとめ、知事や県の教育長、議会などへ働きかけています。



福井県教育センター



県内14地域と、高校、私学の16支部で構成。統一した取り組みだけでなく、単独での活動も行っています。



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>